

●三位一体後第十二主日

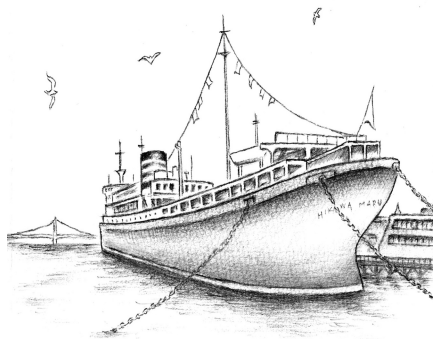
# 泉のほとり

今月の詩編「第百十一編」

主を畏れることは知恵の初め。

これを行う人はすぐれた思慮を得る。

主の賛美は永遠に続く。



## 氣を落とさずに祈る

この「日の下」を生活している間、人は「絶えず祈る」ことが必要です。なぜなら、私たちは天の国ではなく、つまりこの世を生活しているからです。

「祈り」の起源は創世記4章26節に「主の名を呼び始めたのはこの時代のことである」と記されているところと思われまふ。人が初めに神に造られた時には「祈り」というものはなかったのではないのでしょうか。神が造られた天地は、愛や真実、自由と秩序、平和と安息に満ちた「よい」世界であり、神と共に歩む人には今の意味での祈りは必要ありませんでした。しかし今の世界は、愛より悪意、真実より偽りがはびこり、人が自己を中心として自分が正しいと思うことを主張し、人より有利に生きようとするため争いが絶えません。このような日の下で天の国を生きようとする人には必ず落胆することが起こるのです。

主イエスは「氣を落とさずに絶えず祈らなければならない」と教えられました。そのために主は一つのとえを話されました。ある町に、神を恐れず人を人とも思わない、最悪な裁判官がいました。彼は「相手を裁いて、私を守ってください」と訴える一人のやもめに対し、しばらくは取り合おうとしませんでした。しかし、やもめがうるさくてかなわないため、自分の都合が悪くなるのを避け、面倒な目に遭わないように裁判をしてやろうと考えます。主は「この不正な裁判官の言いぐさを聞きなさい」と言われました。最悪な裁判官でさえ求め続けることに応じて不義を裁くのなら、まして神が、昼も夜も叫び求めている選ばれた人たちのために裁きを行わず、いつまでも放っておかれるはずがありません。神は速やかに裁いてくださるからこそ、落胆してはならないのです。

この世にあってもキリストに従い神の国を生きる弟子たちは、今日、最も弱く力のない、だから訴えることしかできない「やもめ」に例えられています。不当な苦しみに

遭い、祈りが聞かれないような局面が続くと、それにつまづき、自分だけが不利だと、それで世の人の考えに流されて生きてしまいか、あるいは自分の正義感が前面に現れ、人や社会への怒りに身を任せてしまう誘惑に陥ります。神の「速やかに」は人の目には遅く感じることもあります、振り返れば主は速やかに取り合ってくださいと気づかされるものです。あらゆる悪に対して自分の手で報いることは私たちは許されておらず、神に祈り訴えることだけが許されています。裁きは神のものであり、自分の義を捨てて神の義を求める祈りの信仰こそが、自分の怒りに身を任せないための、この世を生きる知恵なのです。

使徒ペテロが伝えるように、この日の下で神の国を生きる住人には試練が伴いますが、それは信仰が火で精錬され、本物と証明されるためです。不当な苦しみを受けても、神がそうお望みだとわきまえて耐えるなら御心にかなうことです。キリストご自身も、不当な苦しみの中ののしられてもののしり返さず、正しくお裁きになる神にすべてを任せになりました。神はその十字架の主にも人の罪を担わせ、人が罪に対して死に、義によつて生きるようにされたのです。あらゆる試練や不当な苦しきは、私たちがキリストの善き業に生きる者へと造り変えられ、肉の業を捨てて完成されるために与えられています。人がこの地上に生かされている間、神は人に「よいこと」だけをなさるのです。

主は「人の子が来るとき、果たして地上に信仰を見いだすだろうか」と語られました。これは、神を信じて落胆せずに祈り続ける信仰を見出すことがいかに少ないかを示しています。しかし私たちは、何度倒れることがあっても落胆しません。私によいことだけをなさる神がおられ、死に打ち勝ったキリストの復活の勝利を信じるからです。私たちの祈りが、主イエスのよき業が人の命となったように、この日の下を共に過ごす隣人への光となるように、主が残してくださいだつた信仰の足跡にどこまでもついていきたいと願います。

(ルカ一八章一〜八節黄允湜牧師)

---

## 《私たちのビジョン》

主イエスの愛の中で、

愛と交わりを通して

お互いに成長する教会

## 《2026年度

## 教会全体課題》

神さまによって

示された新しい歩みの中で

キリストの体としての一致を

祈り求める

ーコミュニケーション、交わり、

伝道、学びなどを通してー

---

## 《今日のお知らせ》

○本日、黄牧師は夏季休暇で不在のため、吉村名譽牧師が説教をはじめ礼拝でのご奉仕を担当してくださいます。

○本日、教会学校のデイキャンプが地下ホールで行われます。

## 《ぶどうの会より》

ぶどうの会を第二・三シオンルームで行います。

## 《祈りの会より》

祈りの会を第二・三シオンルームでぶどうの会終了後（一二時三〇分頃予定）開催します。皆さまのご参加をお待ちいたしております。

---

## 《教会事務所より》

二四日（月）～三一日（月）までの予定で、エレベーターの更新工事を行います。次週三〇日はエレベーターをご利用いただけません。ご不便をおかけいたしますが、ご承知おきの程、宜しく願います。

## 《交 読 詩 篇》

※会衆は太字の箇所を唱和します。

（司・会）の箇所は司式者と会衆が合わせて唱和します。

【詩篇百十一篇】

（司・会）

ハレルヤ。

わたしは心を尽くして主に感謝をささげる

正しい人々の集い、会衆の中で。

主の御業は大きく

それを愛する人は皆、それを尋ね求める。

主の成し遂げられることは栄え輝き

恵みの御業は永遠に続く。

主は驚くべき御業を記念するよう定められた。

主は恵み深く憐れみに富み

主を畏れる人に糧を与え

契約をとこしえに御心に留め

御業の力を御自分の民に示し

諸国の嗣業を御自分の民にお与えになる。

御手の業はまことの裁き

主の命令はすべて真実

世々限りなく堅固に

まことをもって、まっすぐに行われる。

主は御自分の民に贖いを送り

契約をとこしえのものと定められた。

御名は畏れ敬うべき聖なる御名。

主を畏れることは知恵の初め。

これを行う人はすぐれた思慮を得る。

（司・会）

主の賛美は永遠に続く。

## 《今日の子ども礼拝》

●子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）

説教 「極めて良い世界」

聖書 創世記2章18～23節

説教者 宮間 彰広兄

## 《次週の礼拝》

●子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）

説教 「食べてはいけない木の実」

聖書 創世記3章1～7節

説教者 吉村 和雄 名誉牧師

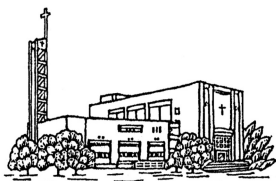
●主日礼拝（午前10時30分・礼拝堂）

讃美歌 67番 19番

説教 「神の前にいるのです」

聖書 使徒10章23b～33節

説教者 宮間 彰広兄





## 主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 15番 532番  
説教 「救われた喜びを生きる」  
聖書 ルカ7章36～50節(新約 P.116)  
司式 石川 一 兄  
聖餐司式 吉村和雄 名誉牧師  
説教者 吉村和雄 名誉牧師

前奏曲「もし神が私たちの味方であるならば」  
(メサイア第52番) G.F.ヘンデル

### ○讃美歌15番

- 1.我らのみかみは 天地すべます  
国々しまじま 喜びたえよ
- 2.みいつの光は 世界をてらせり  
大地はかしこみ み前にふるえり
- 3.誰かはさからう み神のみわざに  
誰かはなみする み神のみむねを
- 4.よろずの君らは み前にひれふせ  
すべての力は み神のものなり
- 5.天にも地にも み歌ぞきこゆる  
「われらの神こそ まことの神なれ」

アーメン

### ○讃美歌532番

- 1.ひとたびは死にし身も 主によりていま生きぬ  
みさかえのかがやきに つみの雲きえにけり ※  
(※くりかえし)  
ひるとなく よるとなく 主の愛にまもられて  
いつか主に結ばれつ 世にはなきまじわりよ
- 2.主のうけぬころみも 主の知らぬかなしみも  
うつし世にあらじかし いずこにもみあと見ゆ ※
- 3.ひるとなく よるとなく 主はともにましませば  
いやされぬやまいなく さちならぬ禍もなし ※

アーメン

聖餐曲「おお汝ら信仰厚き者は、いかに幸いなるか」

J.ブームス

「ここも神のみ国なれば」 D.ウット

後奏曲「アンダンテ・アレグロ」

(オルガン協奏曲変ロ長調より) G.F.ヘンデル